

仙台市

地域活動の事例紹介

おらほ！のまちづくり

目次

八幡社の館寄席～落語で八幡に笑いを！～	1P
八幡地区まちづくり協議会【八幡地区】	
魅力ある里山づくりのために	2P
太白山ふれあいの森協力会【太白地区】	
地域通貨「かまど券」がつなぐ住民同士の支え合い	3P
ななかまどの会【永和台地区】	

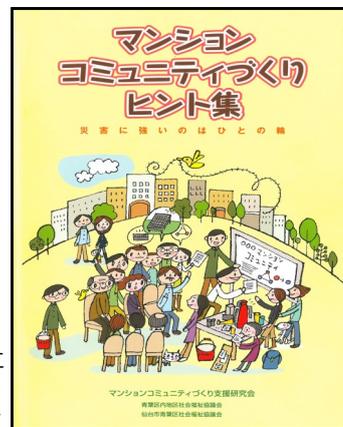
まちづくりの ヒント発見！？

地域では、いろんな
創意工夫をしながら、
まちづくりに取り組んで
います。ここにご紹介する
事例が皆さんの活動の参
考となればと思います。



お知らせ…

「マンションコミュニティづくりヒント集」 ～災害に強いのはひとの輪～



住民の誰もが安心して暮らすことのできる福祉のまちづくりを進めてきた青葉区社会福祉協議会では、マンション住民の孤独死防止と災害時の要援護者支援の問題は看過できない福祉課題でした。そこで、そういった課題をまちづくりの視点から捉え、その解決に向けた取り組みを、実践事例を通して調査研究することを目的とした「マンションコミュニティづくり支援研究会」を立ち上げ、7回の研究会を通してさまざまな事例の調査研究を行いました。

このヒント集は同研究会で調査してきた東日本大震災以前のマンション住民のコミュニティ活動内容と被災したマンション住民の復旧への取り組みや地域社会の支え合い等をまとめたものです。内容は、「町内会（自治会）との連携」「管理組合との協働」など、6つのテーマごとにさまざまな事例を紹介しているとともに、各マンションにおける震災時と震災後の対応をまとめて紹介したり、事例等から得られた「望ましいコミュニティであるための備え」のヒントなどが紹介されたりと、マンションのコミュニティ形成に大変役立つ内容となっております。

このヒント集は、青葉区社会福祉協議会にて1,000円で販売しております。興味をお持ちの方は、青葉区社会福祉協議会までお問合せください。

■問合せ 仙台市青葉区社会福祉協議会 (Tel.022-265-5260)

発行

- 青葉区役所まちづくり推進課
電話 022-225-7211 (内線 6138)
- 泉区役所まちづくり推進課
電話 022-372-3111 (内線 6134)
- 太白区役所まちづくり推進課
電話 022-247-1111 (内線 6137)
- 市民局地域政策課
電話 022-214-6129 (直通)

八幡杜の館寄席～落語で八幡に笑いを！～

八幡地区まちづくり協議会

八幡杜の館

子ども、大人と一緒に“落語”

「じゅげむ、じゅげむ、ごこうのすりきれ、かいじやりすいぎよの…」

少し緊張した様子で始まった子どもたちの小断を、観客の皆さんは温かい眼差しで見守っています。



「八幡杜の館寄席」は、平成19年から始まった、八幡地区まちづくり協議会主催のイベントです。現在は3月と11月の年2回開催しています。会場は八幡地域の皆さんの文化活

動の拠点である「八幡杜の館」。中心となって寄席を運営しているのは八幡地区まちづくり協議会の加藤晴美さん。出演者は地元八幡小学校の児童、東北学院大学・東北大学の落語研究会の学生さんたち、東北大学落語研究会OBであり、現在も噺家として活動している桂友楽さんという幅広い年代の顔ぶれです。

「八幡地区に笑いを！がコンセプトでした。八幡の古い街並みには落語がびったりではないかと地元の人と意気投合したんです」と語るのは仕掛け人の板垣裕太さん。板垣さんは青葉区が平成18年に実施した「まちづくり実践大学」の受講生です。このとき板垣さんを含めた学生数名で八幡地区におけるまちづくりの企画書を作成。これを受けて、平成19年に八幡地区で初の落語イベントが開催されました。



かつて八幡町の街道沿いに建っていた天賞酒造の建物の一部を移築。八幡地区の歴史を感じさせる町並みの象徴として、地域のシンボルとして蘇っています。

「八幡地区まちづくり協議会」とは…

- ★八幡地区の地域の魅力・歴史を伝えていくために、まちづくりに特化した団体を作ろうという意識が高まったことから、町内会の枠を超えて組織されました。
- ★主に八幡地区における各種催しの実施、八幡杜の館の管理・運営を自主的に行っています。

人を“繋げる”

開始当初は東北学院大落研の学生のみイベントでした。2回目の実施から東北大学落研の学生が加わるようになり、さらにこの2大学のまとめ役として東北大落研OBの桂友楽さんが加わりました。このとき飛び入りで参加した中学生が好評だったことから、以降は八幡小からも参加者を募るようになり、現在の形の寄席が出来上がりました。

子どもたちに落語指導するのは落研の学生さん達。それをベテランの桂友楽さんが監修し、八幡地区まちづくり協議会の加藤さんを中心とした地域の皆さんが運営に携わります。落研の学生さんは代が替わっても後輩にしっかりと引き継いでくれているそうです。

「接点など特に無かった落研の学生さんに声をかけることから始まりでしたが、そこから桂友楽さん、八幡小の子どもたちへと、どんどん広がっていきました。現在の寄席は人と人がうまく繋がっていった結果だと思います」と板垣さんは語っています。

地域で子どもを育てる

元気いっぱい子どもたちは、はしゃぎすぎて加藤さんに叱られることもしばしば。「最近の親御さんはうまく子どもたちを叱ることができないみたいですね。同じ地域に住んでいる大人が、親ではない立場で子どもと向き合い、叱ったり褒めたりすることは大事だと思います」と加藤さん。

「子どもは地域の宝。地域全体で子どもを育てるという関係づくりは大事だと思います。地域全体を変えようとするのは難しいですが、子どもが変われば自然と大人も変わっていくんです」と桂友楽さん。

最近では子どもたちにつられて若い保護者の方々の協力が増えているとのこと。子どもの影響力は大きいようです。

八幡地区自慢のイベントに

今年の11月で5回目の開催となる寄席は、回数を重ねるごとにますます賑わいを見せ、最近では立ち見のお客様も多く、会場から人が溢れそうな勢いです。

現在寄席に参加している八幡小の児童の中には、中学生になっても続けたいという熱意を持っている6年生もいます。

「いずれは小学校だけでなく中学校、さらには近隣の高校へも落語の輪を広げ、いずれは杜の館だけでなく、大崎八幡宮の社務所などでも実施できればと考えています。子ども、若者、地域のお年寄りの3世代が交流し、来てくれる人が喜んで帰ってくれる、『ここに住んでいてよかった』と思えるようなイベントにしたいです」と、加藤さんは語ります。

最近ではイベント告知のためにテレビ出演を申し込んだりと、宣伝活動にも積極的。これからもどんどん進化し、変化を見せてくれるような「八幡杜の館寄席」に引き続き期待したいです。



事例のまとめ

地域の小学生を交えた八幡地区ならではの寄席が、世代間の交流を生み、誇りと愛着の持てる地域づくりに繋がっています。

魅力ある里山づくりのために

太白山ふれあいの森協力会

太白山はライフワーク

太白区のシンボルの豊かな自然の宝庫・太白山。標高320.7m、市街地が近いにも関わらず700種あまりの植物と、約80種の動物が息息する里山です。その太白山の環境維持に日々努めているのは「太白山ふれあいの森協力会」。正式な会の発足は平成10年で、今年で活動は14年目になります。

「私有地である太白山を市民のレクリエーションの場として開放し、里山である太白山一帯の環境美化と、市民に憩いの場として使用してもらうため、会を発足しました。」とふれあいの森協力会の吉野紀行会長は語ります。

会員は太白山の地権者111人。実際活動に参加できる会員は近くに住む方々になりますが、

声をかければすぐに集まる活発な会です。

会長である吉野さんは太白山に毎日登り、日々エリアを決めて清掃をしています。太白山の登山道の整備・点検のほか、小中学校で太白山の登山サポートや、太白山の自然や歴史についての講師も行っています。

「登山道の朽ちて危険そうな木はすぐ伐採するようにしています。生い茂った木のため、消防署から緊急車両が通れないなどの連絡もくるんですよ」と吉野さん。

日々太白山の環境維持・保身に努め、市民のみならず、市からも依頼される、太白山のよき窓口になっています。



事例のまとめ

市民と交流しながら、太白山の環境維持・整備を通して、市民の憩いの場となる里山づくりに取り組んでいます。

市民とのふれあいが「きれい」を保つ

太白山には四季折々の自然を楽しむため、多くの登山者がいます。吉野さんは毎日少しでも山に行き、山の様子を見ることを欠かしません。

「誰に来てもらっても山の第一印象をきれいと感じ、気持ちよく登ってもらえるようにしたいです。登山者に声を掛けてもらえると嬉しいですね。夏には京都や九州など、遠方から来た方にも登ってもらえて嬉しい



限りでした。毎日行くと登山者や散歩者と自然と顔なじみになります。心無い人が捨てたごみや、危険なスズメバチの巣の情報などを教えてもらい、早めに対応しています。」

このような情報を基に可能な限りすぐに対応することが、人々の信頼に繋がり、会の活動を円滑にしているのかもしれない。年間の下刈りやごみの回収、トイレや側溝の整備などの活動に加えて、登山者に何が必要とされているか考え、休憩スペースや案内看板の設置も行っています。

さらには太白山の登山マップを手作りしておりとても好評です。会として常に怪我なく、気持ちよく登ってもらうために、対策と工夫を凝らしています。



会で設置した休憩スペースは登山者のみなさんにおおいに活用されています。

太白山再生へ向けて

そんな太白山も3月の地震により、中腹にある「生出森八幡神社」の周辺石垣や石段が崩れてしまったままです。

「嬉しいことに、復旧に向けて手伝いたい、支援をするので、神社を直して欲しいという方が多くいます。今後は看板をたて、復興募金をつくり、正式に支援をいただきたいです。」と吉野さん。やはり登山しても御参りできないのは寂しいもの。一日も早い復旧に向けて、会のみなさんは思いを巡らせます。

また、山の中腹に差し掛かる道の分岐点には、会で植林を行った「桜の園」があります。

「桜の園に桜を植林して35年になります。桜の周辺には登山者の方が彼岸花も植えてくれています。一帯を桜や彼岸花で満開にしたいで

すね。」

今後は山の環境美化とともに、登山者との繋がりをより大切にしていきたいと言います。

「これからは地権者や登山者と、桜の園でのお花見を計画していきたいです。登山者の方々とお花見は楽しみですね」と夢は膨らみます。

市民・市と協力しながら活動している「太白山ふれあいの森協力会」あってこそ太白山の自然は守られています。

中学校の登山サポートの様子。「桜の園」では春になると満開の桜が楽しめます。



地域通貨『かまど券』がつなぐ住民同士の支え合い ななかまどの会

かまど券ってなに？

永和台地区社会福祉協議会では、平成16年から地域通貨「かまど券」を使って住民同士の支え合い・触れ合い活動を行っています。活動母体として「ななかまどの会」を発足させ、安心して暮らす事ができる住みよいまちづくりのために取り組み、今年で9年目をむかえます。「永和台の団地が出来て40代で家を建てた世代が、現在70代～80代になっています。高齢化が進んでいる今、地域で地域通貨を使った助け合いはますます必要になってきています。」と勝山道男会長は話してくれました。

若い力でイキイキと！！

永和台地区には学生がたくさん住んでいます。隣接する東北学院大学では、授業の一環として、かまど券の体験学習を行っています。この日は15人の学生が参加し、実際に地域のお宅へかがって草刈りや窓拭きなどのお手伝いを体験しました。学生からは、「参加してみて初めて助けが必要とされていることを実感した」「ただ手伝うだけでなくいろんなお話を聞かせてもらった」などの感想を聞くことができました。



あせらず、ゆっくりと・・・

かまど券の活動を始めて9年目をむかえますが、支援する側も支援される側も高齢化が進み、一時活動が下火になった時期もあるそうです。

「地域の支え合いは利益追求のための活動ではありません。あせらず、ゆっくり、助けが必要な人のお手伝いをすることが大切、と地道に活動してきました。」と勝山会長。

会報「かまど新聞」を年5回程度作成して全戸配布したり、役員の家の前に「ななかまどの会」と書かれたのぼり旗を掲げたりなど、地域に根ざした広報活動も積極的に行い、22年度の利用件数は91件まで増え

「地域通貨」と言うと、商店街の活性化のため

の地域振興券のようなものを想像しますが、かまど券は個人の間で行われた“お手伝い”に対して使用されます。

例えば、「病院に行きたいけれど、足が悪くてバスに乗るのは大変・・・。」という時に、かまど券を購入して病院への付き添いをお願いします。すると、会に登録している支援者の方が付き添ってくれます。お手伝いが終わったら、御礼としてかまど券を支援者の方に渡します。かまど券は、昔はあたりまえのようにあった地域に住んでいる人達同士の支え合いをもう一度つくるためのきっかけとなっています。

「か」は感謝（ありがとうの思い）
「ま」は真心（真実の心）
「ど」は道理（物事の正しい筋道）
～その地域の、その地域らしい支え合いを目指して～

1時間のお手伝いで500かまど（500円）を目安に使用します。

このような活動を長く続けていることで、夏祭りや子供会行事へ学生が参加するなど、地域と大学・学生の繋がりは多方面に広がってきています。普段から地域との繋がりを持っているため、学生からは「地域を大事にしよう」という思いが伝わってきます。

また、若い世代が身近にいることは、高齢化が進む団地にとっての活力にもなっています。今回お手伝いしたお宅では、学生達と笑顔で会話している光景がたくさん見られました。若い力をもらって、皆さんイキイキとしています。



ました（21年度実績65件）。そういった地道な努力が、9年もの長い活動を支えているのです。

利用者数が少ないからといって活動をやめたりはしない、助けを必要としている人がいるなら皆で支え合おうという気持ちが地域の中にしっかりと育っています。今後は学生のサークル活動などと連携したさらなる発展が期待されます。



事例のまとめ

かまど券を仲介にして、住民同士で支え合うという意識が着実に地域に根付いてきています。

かまど券人気お手伝いBEST3
☆第1位☆ 病院の付き添い
第2位 買い物送迎
第3位 ゴミ処理場への不要品の運搬